

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市市民の森基本計画検討委員会				
事務局 (担当課)		環境経済局経済部津久井地域経済課 電話 042-780-1401				
開催日時		平成27年11月17日(火) 14時00分～16時00分				
開催場所		緑区合同庁舎3階 会議室3-2A・B				
出席者	委員	7人(別紙のとおり)				
	オブザーバー	3人(別紙のとおり)				
	事務局	3人(別紙のとおり)				
	支援業務受託者	3人(別紙のとおり)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由		公開				
会議次第		1 開 会 2 議 事 (1) 相模原市市民の森基本計画の検討について (2) その他 3 閉 会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(発言者： 委員長、 委員、 オブザーバー、 は事務局、 支援業務受託者)

1 開 会

津久井地域経済課長より開会宣言を行った後、会議の成立の報告を行った。また、会議の公開について諮り、了承を得た。

以後、委員長により進行が行われ、傍聴希望者の確認を経て、1名の傍聴者の入室が許可された。

2 議 事

(1) 相模原市市民の森基本計画の検討について

事務局より、基本計画の考え方を整理し、素案としてまとめた資料に基づき、概要説明を行った後、質疑応答が行われた。

説明概要

- ・ 相模原市市民の森の整備については、基本構想において段階的整備を基本的な考え方としており、その第一段階としては森林管理体験ゾーンと散策・ウォーキングゾーンが中心となっているため、これを踏まえた計画とする。
- ・ 第一段階整備における基本方針
 - 森林活動に必要な施設を整備する
 - 自然に配慮した施設整備をする
 - 多様な主体が多様な活動を展開するための基盤を整備する
- ・ 基本方針を踏まえた整備の枠組み
 - ハード整備
 - ・ 管理棟
 - ・ 作業小屋・トイレ(森林管理体験ゾーン)
 - ・ 散策路・山頂トイレ(散策・ウォーキングゾーン)
 - ソフト整備
 - ・ 市民参加プログラム展開
 - ・ 担い手の確保・育成
 - ・ 管理運営への民間活用
- ・ 基本計画の構成の考え方
 - 1 基本計画策定の基本的考え方
 - (1)計画の背景と目的
 - (2)対象地及び周辺の状況
 - 2 基本計画

- (1)基本方針
 - (2)整備の枠組みと動線計画
 - (3)計画内容
 - (4)実施行程案
 - (5)概算費用
- 3 管理運営の考え方
- (1)管理・運営主体のあり方
 - (2)管理・運営の基本方針
 - (3)マネジメントの内容
- 4 今後の整備の方向性・将来像
- 5 参考資料
- (1)計画策定の経緯
 - (2)民間事業者等との協働による施設マネジメントの事例

観光振興の観点からは、市民の森の中だけでなく、高塚山や篠原方面にも目を向けるべきという話をこれまでもしてきているが、基本計画に反映されていない。

観光としては、「新相模原市観光振興計画」などに基づき、この市民の森も一つの資源として、周辺の観光資源との連携などについて、積極的に検討を行っていただければありがたい。

市民の森としても、将来的には高塚山や篠原方面など、他の地区との連携やルート整備も必要と考えているが、今回、検討いただく内容は、地域の意見も取り入れながら取りまとめた、石老山北側の市有林を中心とする基本構想における第一段階の計画内容についてである。

従って、現段階で高塚山や篠原地区を盛り込んだ計画づくりを行うことは、難しいと考える。

石老山の桜道は、観光協会とまちづくり会議でつくった。観光協会では石老山のエリアを広くとらえて活動しているが、まちづくり会議ではどのように考えているのか。

まちづくり会議では、石老山を市民の森にするという認識までで、まだ具体的な検討には進んでいない。地元からの要望として、東海自然歩道の木の根の露出に対する対策や、トイレの水の確保などの意見が出されていることは聞いている。

計画対象地の選定は、基本構想の中で既に決まっているが、全体計画の中で林業振興や観光振興の観点から、将来に向けて他の地区や施設との連携の可能性を何らかの形で示す方向で考えるとよいのではないか。

基本構想では、計画対象地周辺の施設を表示していた。基本計画の中でも、周辺施設を表示する方向で考えたい。

そういう形が取れるとよい。

今回の資料は、これまでの個別の資料よりもかなりわかりやすくなったと感じている。市民から見た場合、「関川林道」、「関山林道」、「石老山」など、名称のいわれやエピソードなどがあると親しみやすい。

また、資料の中に「森林浴」とか「ネイチャーゲーム」などの言葉がないので、基本計画には盛り込んだ方がよいと考える。

一口メモのような形でもよいので、基本計画の中に地名や利用のルールなどの盛り込みを考えるとよいのではないか。

「森林浴」とか「ネイチャーゲーム」などの言葉については、活動プログラムの中に入れ込むことが考えられる。

そのような形での対応を検討したい。

先ほど話に出た東海自然歩道の「木の根」が露出していることについては、自然的だとする考え方や、かわいそうだとする考え方など、人によって様々だと思う。階段などをあまりにも整備すると自然からかけ離れてしまうという考え方もある。何か工夫できるとよい。

木の根元があまり掘れてしまうと倒木の可能性も懸念されるため、対策としては部分的な階段工の施工や迂回路の設定などが考えられる。

木の根の話は、利用のルールづくりによる対応も考えられる。このことも含めて、全体的にもう少しソフト面の検討が望まれる。ソフト面での基盤も重要であり、第一段階があまり施設整備に偏らないように、ソフト面の充実も図る必要がある。

多様なルートの整備や眺望の拡充は望ましい。是非進めてほしい。

木の根の問題について、城山から高尾山への縦走では、途中で階段がつくられているが、あまりやり過ぎるのはいかがなものかと思う。危険箇所には手すりを設け、あとは自然を傷めない形での折り合いを考えながら対応していくことが望ましいと考える。

「関川ルート」と「関山ルート」は、知っている人なら違いが分かるが、それ以外の人にはわかりにくい。区別しやすい名称を検討願いたい。「女坂」という名称は、既定のものでなければ、男女共同参画社会の観点から工夫が望まれる。

「森ガールウォーキング」や「森ガールコンパ」という表現も、再考願いたい。

地域では、顕鏡寺の参道を「男坂」、迂回路を「女坂」と呼んできている。高尾山などでも使われており、新設の散策路もこうした呼称を便宜的に用いたもので、名称については検討したい。

今の意見と同様、「森ガール」という言葉には違和感を覚えた。敢えて「市民の森」

の中で「森ガール」という言葉を用いる必要性があるのか。

山登りをする女性、いわゆる「山ガール」がブームになっているということから、たとえ話として引用したものであり、誤解を生じることがあるのであれば、削除したい。もしも、よりよい表現があれば、ご提案いただきたい。

「市民の森で展開が想定できるプログラム」の中に樹木や野鳥などの「自然観察」が少ないので、検討願いたい。

また、森林体験で伐った木をチップ化して活動場所に撒くなどすれば、足にも優しく、資源の有効活用になるのではないか。

チップを使えるところで活用することはよいことと思うが、ヤマビルがいるところでは、チップの下にヤマビルがもぐって、温床になってしまうということに注意が必要と考える。

東海自然歩道を南側に下りたところの篠原という集落の先までヒルが来ている。ヒルの生息を誘発しないような利用が考えられるとよい。

津久井産材の利用については、植林から保育、伐採、製材、搬出まで、地区内で完結する形がとれるようにできるとよい。そして、製材したものにまつわるエピソード、すなわち、何年物のどういった素性の物といったような話なども添えられると、なおよいのではないか。

今後、ソフト展開の検討などと併せて考えていきたい。

基本方針の中に「基盤」というハード的な表現があるが、ソフト面の整備もあることから、別の表現を検討することが望ましい。

検討します。

計画の構成が、動線計画から全体計画へという順番になっているため、わかりにくくなっている。はじめに全体計画として拠点や動線など、全体の位置関係や関連性がわかるようにしたうえで、各動線や各拠点のイメージへとつなぐればよいのではないか。

再検討し、整理したい。

管理棟や作業小屋、トイレの図面の取り扱いはどうすべきか。イメージできる程度の図面は必要と考えているが。

まだ機能図でよいと考える。全体計画の拠点や動線の中でも、管理棟は場所が定まっていないので、四角いマスに機能を配置したようなポンチ絵程度があればよいのではないか。その中で、留意点などがあれば付記していけばよい。

例えば、森林管理体験ゾーンA・Bの並びで、C：管理ゾーンとして管理棟候補地エリアを示す中に機能図を盛り込むことも考えられる。

将来、管理棟を作る際は、倉庫の扉はシャッターが便利である。

管理棟をつくる際には、トイレが手前にあった方が使いやすい。また、土足利用できない施設もあるが、トイレに行くだけでも靴を脱がなければならなくなるため、それは避けてほしい。

第一段階整備における基本方針の中で、「自然に配慮した施設整備をする」という項目の中に、「施設は可能な限りコンクリート・鉄などの人工物を使わずに、木材等の天然素材を使用する。」とあるが、コンクリートや鉄といった単純な構造物にしなければお金がかかるため、断定的な表現は避けて、「木材等を使用する」と書く方がいいのではないか。

公共施設の管理でお金がかかるのは、デザインや材質優先で作られたもの。単純なものが長期的に最もお金がかからないため、ここに投資したお金も少なくなる。躯体は頑丈なものでつくり、外に木材を張るなどの工夫にも対応できるような配慮が必要だと思う。

理想と現実の問題で難しい部分はあるが、コンセプトとしては、できるだけ地域の木材を活用するという方向で整理できればよい。

市でも、公共建築物への木材利用に取り組んでいるので、「木をできるだけ使っていく」というトーンに変更したい。

高塚山へのルートは入れられないのか。

今回の基本計画は、第一段階の整備ということで、市有林を中心にしたエリアでの計画であること、また、高塚山は現状行き止まりで戻ってくるだけのルートになることから、入れていない。

第一段階の計画としての盛り込みは難しいが、周辺施設との連携の可能性という面から、将来の展開の可能性としての記載について工夫するとよい。国有林道や東側の高塚山、南側の篠原方面など、広域的な図面や情報などについて盛り込みたい。

何をしても、維持管理のためのお金が必要になる。富士山では、入山料として1,000円の協力をお願いしているが、なかなか集まらないと聞いている。市民の森でも、公募があるかどうかは別として、ネーミングライツのようなものやってもいいのではないか。また、トイレに募金箱を設置し、利用者に協力を呼びかけることも考えられる。指定管理者が入れば、そういう分野に関するノウハウもあるので、利用料をとって収益をあげてもらうこともよいのではないか。チェンソーの研修など、研修料を取ってやっているところも多い。お金を確保できる仕組みを考える必要があると思う。

基本計画に具体的な内容として盛り込むには、もう少し議論が必要だが、今の意見は非常に大切なものである。市民の森については、行政だけでなく、市民の皆さんや企業の方々とのソフト面での連携が必要となる。

社会的にも昨年6月に「地域自然資産法」が制定（平成27年4月施行）され、国立公園での入域料が徴収できるなどのわくぐみの整備が進んでいる。そうした動きも取り入れながら、市民や企業との協力や連携の仕組みを作り上げていくことが望まれる。具体的な内容として盛り込みは難しいが、可能性としての盛り込みが重要になる。市民の森の管理に必要な人手や財源などを含めて、市民でつくっていく“相模原モデル”を構築して頂きたい。そのあたりが鮮明に見えてきた方がいい。是非そういう事例を取り入れながら、可能性としての“相模原モデル”をつくり、盛り込んでもらいたい。

また、先ほど意見があった「市民の森で展開が想定できるプログラム」における環境学習の充実ということについては、“相模原モデル”が単なる施設モノではなく、ソフトを積み重ねていくものであることを考えると、第二段階との調整は必要ではあるが、もう少し第一段階でのソフトの幅を広くとらえていくことも必要だと考える。施設の名称のいわれや、地域の歴史、地形・地質などの解説があると面白さが出てくる。高齢者や子どもだと、虫とか花など好きな方もいる。

縦断図に示されている勾配（％）の意味が分からない。

％（パーセント）というのは、10m水平方向に進んだところで10m上がれば、 $10 / 10$ で100％となり、「度数」で言うと45度ということになる。一般的に40％程度が階段無しで登れる限界と言われており、これを超えて例えば50％というような勾配になると、階段の整備が必要になってくる。

勾配の目安をどこかに記載した方がよい。レクリエーション活動の際の参考にもなる。改めて縦断図を見ると、結構きつい勾配であると感じる。

できるだけ勾配の緩い場所を選んでルートを設定しているが、ある程度健脚向けのコースと言える。

勾配の目安を付記することとしたい。

石老山入口交差点の側にあるテントは何なのか。

民間でやっている牡蠣の飲食店。

少し魅力を感じた。

そういう施設の立地を促していくのか、抑制するのかなど、様々な考えがある。

今回の計画には入れられないにしても、そういうルールづくりの可能性について検討してみるのもよいと思う。

事業費の扱いをどうすべきか伺いたい。他の基本計画の中には、予算等を載せているものもあるが、市民の森の場合は、今回積算したとしても、つくるものやつくり方など、今後の状況によって大きく変動する可能性があると考えている。概算的なイメージだけでも載せる必要があるかどうか、検討いただきたい。

まだ設計段階ではないので、金額までは載せなくてよいと考える。

(一同了承)

管理運営に関し、市民の森の管理運営を担う団体については、市民の森から出た木材をできるだけこの中で活用していくのであれば、「木材の搬出のノウハウを持っているところに任せたい」というような表現を少し加えるべきではないか。

伐り出した木を実際に使うのは非常に難しく、管理者が常駐するなら、その人が少しずつ挽いておくことが望ましい。それにより来訪者への説得力も増すし、誰がどうやって製材したかなど、紹介の仕方を工夫すれば、理解も深まると思う。

管理運営の部分については、管理運営の担い手や、中核となる組織のイメージなどをもう少し補充していかないと、市民の森のコンセプトが伝わりにくい。次は最後になるが、相談しながら整理していきたい。

(2) その他

次回の日程について、事務局から2月上旬を提案し調整した結果、2月2日(火)14:30からを候補日として、変更も含め、正式には後日通知にてお知らせすることとなった。

以上

相模原市市民の森基本計画検討委員会名簿

< 委 員 >

区 分	氏 名	所 属 団 体 等	出 欠
学識経験者	下村 彰男	東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授	○
自治会連合会	竹田 幹夫	相模原市自治会連合会 監事	○
相模湖地区 まちづくり会議	穴吹 正男	相模湖地区まちづくり会議 理事	○
森林組合	坂本 重光	津久井郡森林組合 代表理事専務	-
観光協会	永井 宏一	一般社団法人相模原市観光協会 副代表理事	○
まち・みどり 公社	諏訪 秀男	公益財団法人相模原市まち・みどり公社 事務局長	○
公募委員	伊倉 太輝	市内在住	○
	高橋 陽子	市内在住	○

< オブザーバー >

氏 名	所 属 団 体 等	出 欠
石井 洋三	神奈川県県央地域県政総合センター 水源の森林部長	○
大矢 雅之	神奈川県県央地域県政総合センター 農政部 森林保全課長	○
厚沢 明宏	神奈川県自然環境保全センター 研究企画部 自然再生企画課長	○

< 事務局 >

氏 名	所 属 団 体 等	出 欠
若林 徹	相模原市 環境経済局 経済部 津久井地域経済課 課長	○
黄木 正彦	相模原市 環境経済局 経済部 津久井地域経済課 総括副主幹	○
榎本 晴男	相模原市 環境経済局 経済部 津久井地域経済課 主査	○

< 相模原市市民の森基本計画策定業務委託受託者 >

氏 名	所 属 団 体 等	出 欠
兒玉 隆昌	株式会社オリエンタルコンサルタンツ 事業企画部長	○
荻野 太一	株式会社オリエンタルコンサルタンツ 技師	○
青木 秀史	株式会社オリエンタルコンサルタンツ 技師	○